

全 構 協

50年のあゆみ



設立から半世紀が経過 記念すべき節目の年 — 新たな時代に柔軟にかつ積極果敢に対応 —

当協会は今年、創立50周年を迎えました。設立から実に半世紀が経過する記念すべき節目の年になります。

事業活動そのものは設立以来、一貫して「経営、技術、教育」の3本柱を軸に据えた展開であり、より良い品質のモノづくり、そして自らの社会的基盤の構築と地位の向上を目指してきた50年と言えるでしょう。ただ、その道程は決して平坦ではありません。この記念誌でもその一端に触れていますが、忘れてはならないことは、多くの苦境を大勢の関係者の熱意や努力によって乗り越えて『今』があるということです。

労働人口の減少に伴い、人材の確保や技術者・技能者の育成がより深刻な問題として浮上、さらに鋼材や副資材はもとより、輸送などの価格高騰、従業員への労働安全の健康管理等のテーマを含めて課題は尽きません。さらに、景気動向に左右されない経営体質の強化といった取り組みは当然ですが、足元でもBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）やDX（デジタルトランスフォーメーション）の活用、そしてダイバーシティなどの推進など、明らかにこれまでとは異なる新たな取り組みが求められています。

こうしたなかで最も大切なことは、いかに時代の変化が生じようとも、われわれの過去の50年の歴史から学び得たことを活かし、新たな時代に柔軟にかつ積極果敢に対応していくことだと思います。そこには業界として、あるいは仲間意識を持った結束力が不可欠となることは言うまでもありません。なにとぞ今後とも皆様方の変わらぬご指導、ご協力、ご支援をお願い申しあげ、巻頭の言葉とさせていただきます。

解説

現在の全構協のシンボルマークは、1989年に制定された。

1989年に組合員を対象に募集を行ったもので、厳正な選考審査を経て三和鉄構建設（広島県）の藤田正三氏の図案が採用された。テーマは「自然と調和」で、ユーザー（施主）と組合、構成員、そして全構連（当時）を意味する3本の輪の中に溶接ビードを抽象化し、その上にJSFAの文字がデザインされている。